

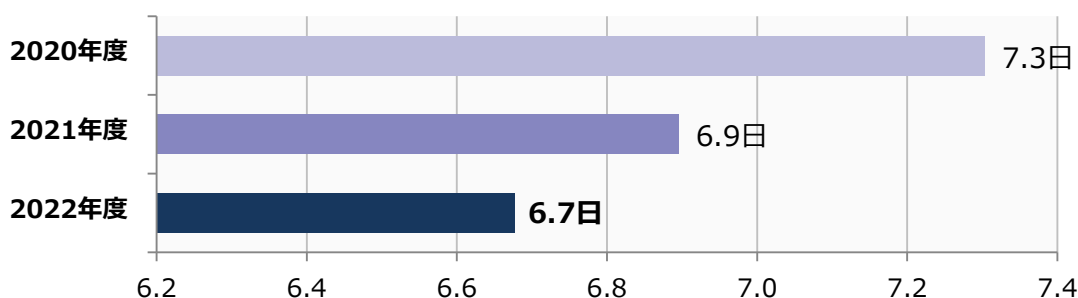
人工呼吸器装着患者の平均装着日数

VAP (Ventilator Associated Pneumonia=人工呼吸関連肺炎)は気管挿管・人工呼吸器開始後48時間以降に新たに発生した肺炎であり、気管挿管患者全体の9~24%に起こるとされています。

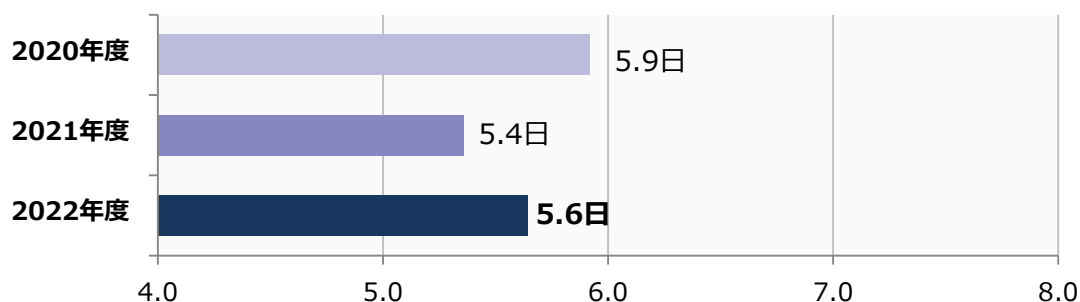
中でも、気管挿管後5日以降の比較的遅い発症のVAP患者では、多剤耐性菌が起炎菌で予後が悪いとされています。VAPを発症することで、明らかに予後が不良となり、ICU滞在日数も長期化します。VAPの発症リスクを減らすには、早期の呼吸器ウィニング、抜管が望ましいことは言うまでもありません。

当院における人工呼吸器装着日数の平均値を把握し、VAP低減のため1日でも人工呼吸器装着日数を短くすることが、入院日数の短縮・医療費の削減・病床稼働率をあげることに繋がると考えます。2016年度から「救命センターを含む全病棟」と「救命センターのみ」でデータを分けて算出。これにより「救命センター」では急性期でいかに早く人工呼吸器を離脱するかが課題となり、チーム活動につなげることが出来ます。

【全病棟】



【救命センター】



当院値の定義・算出方法

分子：人工呼吸器装着の総日数

分母：人工呼吸器装着患者総数

分子/分母を月別に計算し、平均を算出した。(※一般・救命含む、気切患者含む、NPPVは除く)

改善策について

2022年度のRSTラウンドは、一般病棟66件(前年比23件減)、救命センター19件(前年比4件増)でした。2022年度は人工呼吸器患者におけるSAT(覚醒試験)/SBT(呼吸器離脱試験)が加算算定開始となり、救命センターではスタッフによるSAT実施定着を目指し活動を始めました。救命センターの平均値は0.28日延長しましたが、離脱可否に向けたスタッフの意識は高まってきている印象にあります。一般病棟・救命センターともに、呼吸器離脱・関連する呼吸リハビリについてはRST以外にも特定行為看護師も大きく関わっています。特定行為看護師が介入している患者については積極的にチームアプローチへ繋げ、更なる人工呼吸器装着日数の短縮を目指したいと思います。

文責：RST(Respiratory support team:呼吸療法チーム)委員長
龍神 香好